

氏名	塩 田 直 史
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2420号
学位授与の日付	平成14年9月30日
学位授与の要件	医学研究科生理系解剖学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Changes in LPIA D-dimer after total hip or knee arthroplasty relevant to deep vein thrombosis diagnosed by bilateral ascending venography (全人工股関節置換術・全人工膝関節置換術後の深部静脈血栓 症と血清D-dimer値の関連)
論文審査委員	教授 大江 透 教授 平木 祥夫 教授 光嶋 勲

#### 学位論文内容の要旨

本研究は、全人工股関節置換術(THA)・全人工膝関節置換術(TKA)後に発生する深部静脈血栓症(DVT)と血清 D-dimer 値との関連を明らかにすることを目的とした。DVT の診断は術前後に行った両側上行性下肢静脈造影にて行った。D-dimer 値の測定は、術前・術後 1, 3, 7, 10, 14, 21 日目に latex photometric immunoassay system (LPIA 法)により行った。静脈造影にて診断された術後 DVT 発生率は、THA で 54 例中 22 例(40.1%)、TKA で 28 例中 18 例(64.3%)であった。D-dimer 値は DVT 発生例で、発生していない症例に比べて、THA では術後 1, 7, 10 日目に、TKA では術後 7 日目で有意に高値を示した( $p<0.01$ )。統計学的には D-dimer の cut off 値を 10  $\mu\text{g/ml}$  に設定することにより、術後 7 日目の DVT 診断に対する感受性は THA で 95.5%、TKA で 94.4%であり、特異度は THA で 96.9%、TKA で 90.0%となった。以上より THA ・TKA 術後 7 日目における LPIA 法血清 D-dimer 値が 10  $\mu\text{g/ml}$  以上の時は、DVT の発生が強く疑われる。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、全人工股関節置換術・全人工膝関節置換術後に発生する深部静脈血栓症と血清 D-dimer 値との関連を検討したものであるが、従来十分確立されていなかった深部静脈血栓症の診断における D-dimer 値の至適測定日および cut off 値に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。